

道路除染の工期半減

作業合理化システムを開発



効果を即時計測 清水建設 広範囲に威力

清水建設は10日、道路除染作業時の表面線量をリアルタイムで計測できる「除染作業合理化システム」(II写真)を開発したと発表した。古河機械金属が開発した高性能線量計を車両に搭載し、運転席に測定データを表示させることで、汚染度にムラのある道路表面に効率的な除染を施すことで、工期を半分に短縮することも可能だ。同

システムは、原子力被災地の大熊町で効果が実証されている。道路除染車両は、高圧水で道路表面を洗浄しながら洗浄水を回収する特殊車両で、除染作業前に実施する線量の調査結果に基づき、噴射圧や進行速度等の除染仕様を設定してきたが、道路の汚染度は一定でないことから、再除染が必要な箇所から、再除染が必要な箇所必要以上の施工がなされる

アシモの技術使い

福島第一 高所作業用ロボット

ホンダ・産総研が共同開発



(マストをすべて伸ばした姿勢)

ホンダと産総研が共同開発した「高所調査用ロボット」(II写真)を、同日、東京電力福島第一原子力発電所向けに、遠隔操作で原子炉建屋一階高所の狭い箇所

等々の構造把握と現場調査を行う「高所調査用ロボット」(II写真)を共同開発し、18日から建屋内で稼働を始めること発表した。

リニアコライダー始動へ

3カ国で国際式典 45兆円の経済効果

全長30km超の長大な加速器を建設する次世代素粒子物理研究プロジェクト「国際リニアコライダー」の技術設計報告書が12日に完成し、同日、日本、スイス、米国の3カ国をリレーする

記念式典が行われた。この国際式典は、日本会場となった東京大学本郷キャンパスから始まり、スイス・ジュネーブを経て、最終会場となった米国・シカゴで、設計報告書が、国際将来加速器委員会に提出された。各地域では、シンポジウム、レセプションなどが開催され、参加した研究者らが、加速器建設に向けての前進を祝った。「国際リニアコライ



国際リニアコライダーの国際式典の様子。

る箇所が生じるなど、効率化が求められてきた。このほど開発された「除染作業合理化システム」を適用する車両には、前方部と後方部にそれぞれ三つずつ、従来の六十倍の速度で計測可能な、耐水性、耐衝撃性にも優れた高性能線量計を搭載し、運転席には線量計モニターを設置している。運用は、現地の線量や除

染の目標値、試験施工の結果などを考慮して、車両前方の線量計が感知する線量に合わせた速度で進行速度を事前に設定する。再除染の必要な箇所が生じるも、車両後方の線量計で、その範囲をリアルタイムに特定して行うので、作業ロスが低減できる。これにより、広範囲に及ぶ道路除染作業で威力を発揮しそうだ。

ベント装置工事に着手

北陸、中部で安全向上へ対策

北陸電力は17日、志賀原子力発電所の格納容器フィルタ付きベント装置設置などの現地工事に着手したと発表した。新規制基準案などを踏まえて検討している安全性向上のための施策のうち、フィルタ付きベント装置のほか「原子炉および

北陸電力は17日、志賀原子力発電所の格納容器フィルタ付きベント装置設置などの現地工事に着手したと発表した。新規制基準案などを踏まえて検討している安全性向上のための施策のうち、フィルタ付きベント装置のほか「原子炉および

また、中部電力は14日、浜岡原子力発電所4号機におけるフィルタベント設備について、設備を収納するフィルタベント室の掘削工事に着手したと発表した。

二〇一四年度末の対策完了を目標に、着実に工事を実施していく計画だ。

東京電力から提供された現場の情報をもとに開発を進めてきたもので、上部に設置した調査用アームロボット部分をホンダが、クローラー式高所作業車を産総研が担当した。調査用アームロボットは、ヒューマノイドロボット「ASIMO」の開発で培った技術を応用している。

たとえば三次元のポイントクラウド(点群座標)により、調査対象の周囲の構造物を立体的に

同時に制御するシステム、アームが周囲の構造物に接触した際にその衝撃を吸収する制御技術などを応用している。

これらの技術により、調査用アームロボットは、原子炉建屋内の構造物が入り組んだ状況でも、多数の関節を同時に制御することで、隠れていて見えない対象物も容易に捕捉し、アームの先端に設置したズームカメラやレーザーレンジファ

さらに、ホンダと産総研は、直感的に分かりやすい遠隔操作インターフェイスを共同で開発した。これで、免震重要棟などから高所調査用ロボットを遠隔操作して、原子炉建屋内の暗くて狭い箇所を移動させることができ、また調査箇所にてアームロボットのマストを伸ばして、アームの先端が構造物につくことなどなく、7mの高所に到達させ調査することを可能とした。

震災の避難者数 30万人を割る

6月6日時点

復興庁は18日、避難者等の六月六日付けでの所在都道府県別・所在施設別の数を公表した。

避難者は、全国四十七都道府県、約千二百の市区町村に所在しており、避難者等の数は計約二十九万八千人。うち避難所にいる者は、百八十八人で、住宅等に入居済みの者は

NUMO報告会の参加者募集

26日(三田)

原子力発電環境整備機構(NUMO)は、26日、成果報告会を三田Nホール&スペース多目的ホール(東京都港区)で開催する。

また技術開発ロードマップに沿って二十年程度に及ぶサイト選定段階に向けた技術開発全体の方向性、二〇一三年度からの五年間のNUMOの中期的な技術開発計画を具体化した「地層処分事業の技術開発計画」概要調査段階および精密調査段階に向けた技術開発も紹介する。

参加無料で、申し込み順。氏名、所属、連絡先(電話番号/FAX)をメール(tech@numo.or.jp)またはFAX(03-6371-4102)で。

原産新聞の記事検索

<http://www.jaif.or.jp/>

原産協会が発行する「原子力産業新聞」では、1999年11月からの記事データベースから即座に目的の記事を検索できるサービスを、原産協会会員、原産新聞購読者を対象に行っています。何回利用しても無料です。

また、一般の方にも2006年度からさかのぼって1955年9月25日の創刊号までは、紙面のPDF版が当協会HP「電子図書館」からご覧いただけます。PDF版のキーワード検索も年度単位でご利用いただけるようになりました。

- 対象：原産会員、原産新聞購読者
- ご利用にはユーザー名(ID)、パスワードが必要です。
- 電子メールで購読者コード、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。折り返し、IDとパスワードを返送します。
- お申込み：information@jaif.or.jp
- お問合せ：一般社団法人 日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103)

【著作権】一般社団法人 日本原子力産業協会

「あなたに知ってもらいたい 原賠制度2012年版」

原産協会メールマガジンに掲載した「あなたに知ってもらいたい原賠制度」に最新情報を加えて編集した冊子を発行しています。

原賠制度の基本的事項や、福島原発事故への適用、比較材料となる諸外国の制度、国際条約に関する事項もQ&Aで読みやすく解説しています。

入手をご希望の場合は、①必要部数、②送付先、③請求書宛名、④ご連絡先を下記問い合わせ先までお知らせ下さい。

好評頒布中

- A4版 324頁
- 頒価(消費税、送料込)
- 原産協会会員：1,000円、非会員：2,000円

お申込み・お問合せは 一般社団法人 日本原子力産業協会 政策推進部

E-mail genbai@jaif.or.jp

